
日本産業洗浄協議会 メールマガジン 第 77 号

第 77 号をお送り致します。

新型コロナウイルスの感染拡大に加えて感染力が強い変異種の報告もなされておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今月は、(1) トピックス: 【中小企業経営強化税制と生産性向上設備税制の期限について】

【2020 洗浄総合展(オンライン)開催結果報告書】

【「産業洗浄」26 号発刊】

【2021 洗浄総合展出展のご案内】

(2) 連載: 東西対決 JR 環状線「鶴橋駅」

(3) 投稿: 温故知新

*このメールは、日本産業洗浄協議会の各種イベントでお預かりしたメールアドレス宛にお送りしています。不要な方は、末尾にてその旨ご返信下さい。

.....

(1) トピックス

.....

【中小企業経営強化税制と生産性向上設備税制の期限について】

2020 年 12 月 10 日に、令和 3 年度税制改正大綱が公表され、中小企業経営強化税制の生産性向上設備(A 類型)について、2 年間の延長となりました(下記の 69 頁)。

https://jimin.jp-east-2.storage.api.nifcloud.com/pdf/news/policy/200955_1.pdf#page=73

2020 年 5 月 1 日には「生産性向上特別措置法による支援」も 2 年間延長が報告されています。

<https://www.chusho.meti.go.jp/keiei/seisansei/2020/200501seisansei.html>

洗浄機メーカー、周辺機器・付帯設備メーカーにおかれましては、引き続き受注活動にご活用いただきますようお願いいたします。さらに洗浄剤メーカー及び販売店の皆様も本制度をユーザー様に積極的に周知 PR 頂き、営業活動の一助とされますようお願いいたします。

JICC においては引き続き速やかに性能審査・証明書発行を行います。皆様のご申請をお待ち申し上げます。

詳しくは次の URL をご覧ください。

<http://jicc.org/certificate/index.html>

【2020 洗浄総合展(オンライン)開催結果報告書】

日刊工業新聞社から 2020 洗浄総合展 ONLINE および同時開催展の開催結果報告書が公開されました。

下記 URL にアクセスのうえ、ダウンロードしてください。

https://biz.nikkan.co.jp/eve/af2020online/result/af2020online_result.pdf

【「産業洗浄」26 号発刊】

「産業洗浄」26 号が発刊されました。

前号に引き続き、「わが社の一押し」、「業界動向」、「最新トピックス」、「シリーズ関連情報」、

「(新)洗浄今昔物語」、「洗浄相談 Q&A」など充実した内容です。

http://jicc.org/books/index.html#book_f

【2021 洗浄総合展出展のご案内】

2021 洗浄総合展の内容が公開されました。

会期:2021年12月1日(水)~3日(金)

会場:東京ビックサイト 西ホール

<https://biz.nikkan.co.jp/eve/senjyo/>

連載:東西対決 JR 環状線「鶴橋駅」(ペンネーム: MJ)

鶴橋駅(つるはしえき)は、大阪府大阪市生野区・天王寺区にある近畿日本鉄道(近鉄)・西日本旅客鉄道(JR 西日本)・大阪市高速電気軌道(Osaka Metro)の駅です。JR 西日本の駅番号は JR-O04。近畿日本鉄道の駅番号は A04・D04。Osaka Metro の駅番号は S19。JR 西日本の駅シンボルフラワーは「アジサイ」です。鶴橋駅は 2015 年(平成 27 年)3 月 22 日に発車メロディを導入。曲は桂雀三郎 with まんぶくブラザーズの「ヨーデル食べ放題」。「ヨロレイヒー〜♪」というメロディ。鶴橋駅周辺の「焼肉」からこの曲が選ばれました。

大阪鶴橋といえば、焼肉のイメージが強いです。その中でも有名なのが「鶴一」で「つけだれ」発祥の店と言われています。昭和23年創業で、昔、焼肉は「もみダレ」でしたが、先々代が口の中のヤケド対策で、いりこ出汁ベースのつけだれを出したのが始まりで好評だったため鶴橋で広がったそうです。安くておいしいですよ。

鶴橋の不思議な話として、JR や近鉄の自動放送では「つるはし」と「る」にアクセントを置いて発音されていますが、Osaka Metro の自動放送では「つるはし」と「つ」にアクセントを置いて発音されています。大阪市内でも人それぞれです。なぜこうなったのか理由はわかりません。

今回は、桃谷駅を予定しています。お楽しみに。



(3) JICC クルーによるリレーコラム Vol.8

(ペンネーム: クロード・チアリ)

～温故知新～

フッ素系溶剤 CFC-113 が洗浄剤として脚光を浴びていた 1970 年代、当初洗浄装置の冷却パイプは水道水で冷やされていました。そのうちに、より低い温度で冷やした方が洗浄剤の消費量が減るため、洗浄装置メーカーはこぞって冷水装置を採用するようになりました。しかし、当時の冷水装置は大変高価でなかなか手が出ません。知恵を絞った結果、冷凍機だけを購入し、冷水タンクなど設けずに、冷媒ガスを直接冷却パイプに回して零下に冷やせば、消費量とコストが減ら

せる、となりました。結果、洗浄剤の消耗量は低減され、水道水を垂れ流すこともなく、製造コストも抑えられたのです。

そうこうしている内に、またまたグッドアイデアが出まして、冷凍機(コンプレッサー)から出た直後の高温の冷媒ガスをベーパー槽の加熱・沸騰に使えないか、と云う発想です。

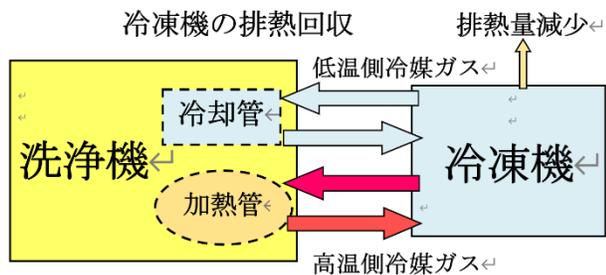
CFC-113の沸点は48℃のため、ベーパー槽に70℃前後の高温の冷媒ガスが流れるパイプを設置すれば、CFC-113は沸騰状態となり、その気化熱によって冷媒ガス温度も一気に下がります。一挙両得、冷凍機から大気への熱放出量は減少し、洗浄装置のヒーター容量も減らすことが出来ました。CFC-113の沸点と冷凍機の高温側ガス温度のベストマッチです。

ところが、コンプレッサーは熱を移動する機器であるため、装置の立ち上げ時には吸熱もなければ放熱(加熱)も出来ないという状態で、装置は一向に立ち上がらない。立ち上がってからも、高圧側冷媒ガス温度を高温(高圧)に保つため冷凍機に大きな負担がかかる、また一旦ラジエーターの冷却ファンが回り出すと、今度は逆にベーパー槽内の熱を引っ張り出し、ベーパー槽の液の沸騰が止まってしまう、という問題もありました。

冷凍機の廃熱回収(省エネ)という点では大変素晴らしいアイデアであったと思いますが、制御が大変に難しく、サービスマン泣かせでした。その内にCFC-113の規制が始まり、この技術は忘れ去られてしまったようです。

脱炭素社会が掲げられる世の中、洗浄装置系も省エネ・省資源を目指さねばなりません、異種の深い知見が必要とされる場合も多く、苦労も多いことでしょう。

しかし、チャレンジ精神は常に持ち続けたいものです。



最後までご覧いただきありがとうございました。今後ともご愛顧のほどよろしくお願い致します。
▼<<配信停止>>をご希望の方は、お手数ですが以下をクリックし、その旨ご記入いただき送信下さい。▼

sskjicca@jicc.org

▽お送りしたこのメールは、送信専用ですのでこちらには、返信しないで下さい。▽